

8省庁36項目 政府交渉を行う!

日本共産党鹿児島県委員会は、来年度政府予算編成にあたり、県民の緊急切実な諸問題を組み込むよう政府交渉をおこないました。要請には、まつざき真琴県議や祝迫かつ子前県議(衆議院比例代表候補)や山口はるき(衆議院鹿児島1区)、堀たくお(同2区)、村山さとし(同3区)、川浪たかゆき(同4区)、茅野ひろし(同5区)の各選挙区候補と崎田信正名瀬市議が参加しました。その主な交渉内容について報告いたします。

普通教室へのクーラー設置の推進を!

学校の普通教室へのクーラー設置について、予算を確保し積極的に推進することと、電気代などの維持管理費への補助をおこなうよう要望しました。

これに対して、担当者は、今年度から新築や大規模改修などの場合は、ほぼ全部認める方向であるということ、維持管理費についても基準財政需要額の中に参入され、交付税措置がなされると答えました。

左より村山、山口、まつざき、かやの(後列)、祝迫、堀(後列)、川浪、崎田各氏



離島の家電リサイクル料金の収集運搬料を引き下げて!

(単位は円)

昨年に引き続き、収集運搬料金軽減、各港に指定引取場所設置を要望しました。

リサイクル推進室の担当者は「地元の創意・工夫で昨年6月から運搬料金は半分程度になった」と説明しました。

交渉団は名瀬市が作成した資料(右表)も示し、鹿児島市平均と比べ、2000円から4000円も高くなっていることを指摘。国側は「示された数字をもとに家電メーカーとも相談したい」と約束しました。

		リサイクル料金	収集運搬料金	計含消費税	差額
エアコン	名瀬市	3,500	4,000	7,875	2,625
	鹿児島市	3,500	1,500	5,250	
テレビ	名瀬市	2,700	3,000	5,985	1,575
	鹿児島市	2,700	1,500	4,410	
冷蔵庫 250L以上	名瀬市	4,600	5,500	10,605	4,200
	鹿児島市	4,600	1,500	6,405	
冷蔵庫 250L未満	名瀬市	4,600	4,000	9,030	2,625
	鹿児島市	4,600	1,500	6,405	
洗濯機	名瀬市	2,400	4,000	6,720	2,625
	鹿児島市	2,400	1,500	4,095	

ムダな人工島建設は中止すべき!

国側は、人工島建設について、あくまでも桜島の土石流の処分場を確保してほしいという要望が出て判断したものであると答えました。

交渉団は、県の財政状況がきびしい中で、人工島建設は最大のムダづかいであり、きっぱりとやめるべきであることを主張し、国としても人工島関連の予算をつけるべきでないと要望しました。

小沢和秋衆議院議員も同席 厚生労働省 国土交通省



川内原発の増設はやめよ！ 自然エネルギーの研究・開発に力を 注ぐべき！

交渉団は、原発への住民の不安を訴え、川内原発の増設やプルサーマルの導入をやめるよう強く求めました。

担当者は、日本のエネルギー需給構造が極めてぜい弱で輸入に頼っている現実を述べ、ウランの資源を有効活用するためにプルサーマルをすすめていくと説明しました。

交渉団は、ヨーロッパなどの例も示し、風力発電など自然エネルギーや燃料電池の開発などに力をいれるべきではないかと、エネルギー政策の転換を訴えました。

ツル飛来に伴う被害農家に援助を！

昨年の交渉時に、つる飛来に伴う田んぼのあぜが壊されるという被害について、実態調査をすることを約束していました。しかし、今回の交渉では、担当者が替わったという理由で、調査がおこなわれたかどうかの確認ができませんでした。

ツルの飛来による被害については、いくつかの省庁にまたがっていますが、関係省庁連絡会を定期的に関いているということで、そこで検討できることを確認しました。

田んぼのあぜの被害の状況については今度こそ調査をするよう強く要求しました。

ホームヘルパーの身分保障を！

厚生労働省では、事業所の多くが介護のホームヘルパーを社会保険や労働保険に加入させず、通勤手当も支給しない状況があることを指摘し、国の見解を求めました。国側は、雇用関係があれば、ヘルパーも労働者として各種保険の対象となること、通勤費や保険料の負担を事業所が費用として計上すれば介護報酬に算入させると答えました。

市町村合併の押し付けはやめよ！

鹿児島県は全国有数の離島をかかえる県であるにもかかわらず、国が、離島どうしの合併を押し付ける法定協議会への参加を強引に進めている実態があることを示し、それについての見解を求めました。

担当者は、あくまでの自主的な合併を進めた上で、合併しないところと比べると、合併したところへは公共施設や道路の整備など、様々な財政支援措置をするということ。また、都道府県の合併にまで触れ、そのために、新しい法律を作り、市町村合併と同じように、申請して合併できる道を開くことも検討していると話しました。

交渉団は、期限を切った合併の押し付けをやめて、小さくても元気な個性ある町づくりへむけて、これを啓発、支援していくことにこそ力を注ぐべきだと強く迫りました。

松竹伸幸参議院比例代表候補もかけつける

(松竹氏 = 左から2番目 5日 厚生労働省と交渉)

